

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

JAPAN



地方亢羸錄卷之八

二



而服食利行免狀之鉅帳冲代官署用  
固定人是等方等

亢二十七条

門ワ3  
號6628  
卷9

早稻田大學圖書館  
28.2.23  
藏書

地方丸成錄卷之八

○ 郡帳貢之事

附 地方三帳之事

布貢賈帳之事

羽林羽綱帳之事

南無足帳之事

布施文集卷下洞市之事

六帳卷正布賈帳二見止期月之事

諸帳而支使之事

即將一整歲之事。其古事之謂事大積、一而社稅停

課長也。至五年一而代之。其布賈之他之並附

六帳。多存四年。整也。而割。子。子。子。海。東。之。不。

大祿。貢。稅。而。代。當。要。它。業。年。供。出。代。之。之。金。年。貢。

菌。辛。少。之。が。三。國。の。事。納。あ。照。而。注。之。申。事。不。是。是。

周。う。そ。村。と。而。の。事。納。あ。照。而。注。之。申。事。不。是。是。

此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。此。

印。大。切。の。狀。而。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。

之。底。而。印。大。切。の。狀。而。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。不。

内侍大臣和田の三國をうつて居る。而しての元子  
にて是の御の内侍が山口来安來ひよへて唐風の降府  
あらわら義立と申す者也。伊加乃法としての唐方の服  
能く半之を將、足延めの脚、腰まほ筋骨、頭髮の毛髪  
起る初の三川既に度月、度月上御衣冠用お仕と治す  
御辨明相模と三將も三段まほ筋骨、而後は事  
其間の事は、之は將仕使方被々難形未だ見り  
其間の事は、之は將仕使方被々難形未だ見り

也。其の事は内侍友慶和田源、大和ノ將而あ  
遠そもの也。也て於の事は不改する事か。中ち  
中風の氣拂ひぬる事は、内侍の事也。中ち  
中風の氣拂ひぬる事は、内侍の事也。

あらわらて改りゆふ。

官帳の年室の上りかたは、年年内中、年外中、年外  
の二事と名む。内は改り、外は改めの年、年内外中と事なり。  
但書くが如き、方考車、又は、如、重と刻、水と冬  
米と水と車等がて考らるる年、年内中等を記すり  
重と水と車等がて考らるる年、年内中等を記すり  
中用の裏赤と下なるの例で、南房、中房、北房、中用  
其と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と

重と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と  
中用の裏赤と下なるの例で、南房、中房、北房、中用  
其と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と

脚腰腰方坐光

官帳の年室の上りかたは、年内外中、年外中、年外  
の二事と名む。内は改り、外は改めの年、年内中等を記すり

其と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と

其と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と

其と美風の年内外中等を記す。その年の重、内と

文政三年正月

出水與吉八松文

外

因吉貢下

見取

相馬東方正美

水原義重

出水永三松文

米友松右左年助年春

丸谷水原義重

水原義重

地方三唐主

出水角野然

是モ前事よりの上手

中年賣下納別付

是モ四年正月令限加減と御銀少て奉り得  
五年可得而と申れ。因吉の足材事

中年賣下納別付



口采

一  
秀吉朝年足尾公

武代水軍事等足尾公

米子年足尾公

大曾年足尾公

武代水軍事等足尾公

米助年足尾公

在年足尾公

武代水八百八松文等

米石松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

口采

一  
秀吉朝年足尾公

武代水軍事等足尾公

米子年足尾公

大曾年足尾公

武代水軍事等足尾公

米助年足尾公

在年足尾公

武代水八百八松文等

米石松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

永口松年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

米百陰年足尾公

永口松年足尾公

外水保年足尾公

米書う年足尾公

米尾助年足尾公

葛松町上原二重助拾力歩 色附

火火

火同相脇力及古前脚拾力歩

火火

火同相脇助拾手歩

火火

小从

上相馬町彦三重助拾手歩

火火

中相入野五重助拾手歩

火火

力相拾三町彦三重助拾手歩

火火

力相三前手歩

火火

白赤助町八重助拾手歩

火火

門の前手

火火

猪母町彦助拾手歩

火火

小从手

直赤合力拾手歩平三重手各

赤水合力拾手歩

火火

一高吉手助町彦助拾手歩  
以及別助及古前脚拾力歩

火火

力相脚及手歩

火火

赤水合力拾手歩

火火

方水三重手歩

火火

一高吉手助手歩

火火

一相馬前手歩

火火

一赤

火火

一  
來

其商賈

米河右向賈向和  
總會

米河右向賈向和

手

米河右向

口承

米河右向

米河右向賈向和

右モ何村向年是後年麥明之行改事之為行之

年右何年是後年並他向東年一總行其也限

事行一令長除之のれ

年是月日

右村

多之  
加羅

右ニテ書め相方の事處とまゝれ未令限やゆる  
御の事の度の事の事の事の事の事の事の事の事  
右母國水、中島主、行か、別行、左村方送母國水  
中化被國水、中島主、行か、別行、左村方送母國水  
度假、加方や、中之、但、母國水、別行、左村方送母國水  
中之、基方被、左村方送母國水

一  
此處國水、中島主、行か、別行、左村方送母國水  
定多村も乳子、行か、別行、左村方送母國水  
善、前より近四五年、中島主、行か、別行、左村方送母國水  
さへかれりて、近数十年の事、よしとんす。左村  
限り少鷹、少行、少行、別行、左村方送母國水、左村  
附田相、中島主、行か、別行、左村方送母國水、左村  
中島主、行か、別行、左村方送母國水、左村  
檢え、被、左村方送母國水、左村方送母國水、左村  
少、左村方送母國水、左村方送母國水、左村  
村方、中島主、行か、別行、左村方送母國水、左村  
行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水、左村  
中島主、行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水  
毎行、行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水  
あひか、行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水  
底、底、行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水  
のえ、行か、別行、左村方送母國水、左村方送母國水

社無事にか年方度す。今之は社無事にて、三月の節間御  
舟をそよて御下る所様と別處可と申べ。某日宣教  
の事、御用の根柢より、西園市を立候る。御御用、  
右御子直てえど危険坐て是を由而生と高  
きええ。江ヶ路より年之通御帳を添於合本年号  
勝手写御席考。一揆にて次お海の上船の方  
御方御と西ノ村屋より御側を舟御度方から來  
西園市御元振車とぞー國。西ノ村屋御不  
居りて。」

御御明御帳とづ右中華令牒御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御  
御御御御御御御御  
御御御御御御御  
御御御御御御  
御御御御御  
御御御御  
御御御  
御御  
御

御御明御帳とづ右中華令牒御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御  
御御御御御御  
御御御御  
御御御  
御御  
御

御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御  
御御御御御御御御  
御御御御御御御  
御御御御御  
御御御  
御御  
御

正月御御御御御御御御  
御御御御御御御御  
御御御御御御御  
御御御御御御  
御御御御  
御御  
御

東の事に仕立てしむるをあらむが爲めも居てすよ猶て  
若様にてあまへ坐上致文の「あ乳母」の御復り  
降つ付てあてんと申じ候る事も

降つ付てあてんと申じ候る事も

御座ひて御食味牌を立ちてお教化門代等下  
内侍官一の御事不思りかと衰衰とく御教化門代等下

をとくと衰書ひそかお教化門代等下の御教化門代等下

御殿内院御斗仰古御事御教化門代等下の御

御御膳御事御斗仰古御事御教化門代等下の御

院の事也。ゆきやう若山東義、あ調子及處の付也。  
内九箇方々に日本より上の事也。

一 那帳國連臺面寺其年二月候、ノ連面寺其年連面  
連、其本滿傳のもの無、度支有、之帳是立臺面也。  
春、其本連面寺奉ひて、立連面三日後假想、之連面  
連の後、而、又及連假想、之、只多也、トドカ事也。  
空、前也、此也、連假想也。

### 一 諸帳國連面光

里言人等

一 拼帳 條寺今  
御下御村寺鐵取鐵銀

銀目八十

監寺名下

一 庫帳 條寺京下

銀目四十下

監寺名下

一 繁帳 條寺京下

銀目四十下

監寺名下

一 村帳 大板帳之帳目下

御上御内御寺鐵取鐵銀

銀目四十下

監寺名下

一 繁帳 條寺京下

武大隊小只頭

銀目四十下

監寺名下

○ 別舟免帳事

附  
出札事

別舟免帳も、更以之納、京、國、而、上方國、東、是  
國也。國、高、々、別舟、ノ、落、向、上方而、中國、西、國、之、免、帳、  
喝、圓、あ、れ、と、高、有、河、音、古、承、り、莫、く、そ、ぞ、  
喝、與、す、則、と、水、を、別舟、と、ノ、國、相、上、あ、り、五、前、  
更、未、也、と、別、舟、免、帳、と、ノ、あ、る、又、免、帳、と、  
是、船、免、帳、と、ノ、金、の、免、帳、と、事、也、  
若、も、也、と、重、附、の、事、と、恐、と、ノ、因、通、す、上、さ、が、不、死、と、  
だ、る、者、と、向、も、免、帳、と、聞、と、す、う、れ、と、免、帳、  
而、ど、と、重、附、の、事、と、恐、と、ノ、因、通、す、上、さ、が、不、死、と、  
免、帳、と、解、當、と、い、難、別、舟、免、帳、と、恐、と、ノ、免、帳、  
出、此、國、も、免、帳、と、化、本、源、村、ノ、國、不、  
か、れ、の、心、が、萬、事、と、免、帳、と、而、か、了、又、免、帳、  
別、舟、免、帳、と、ノ、上、下、わ、る、免、帳、の、事、舟、と、三、事、  
也、と、と、出、札、事、と、恐、と、ノ、因、通、す、上、さ、が、不、死、と、  
免、帳、と、解、當、と、い、難、別、舟、免、帳、と、恐、と、ノ、免、帳、  
出、此、國、も、免、帳、と、化、本、源、村、ノ、國、不、

別所を連れて山中を走り、朝も暮も山中で度す。  
佐利村のあら波木川と鷺や本丸の佐利飯田の川  
が山中へ出る。山中を走る車は三輪車のもの  
が珍しく、山中を走る車は二輪車のものである。  
如野村の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
が如野村の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別  
音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事  
である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。別所の方を走る車は、本丸の車と見えて、別

音楽の曲が聞こえて、他の村の文化を含んでゐる事

である。

河井

○第十九回

附 開帳仕立方限の定書事

開帳仕立方限の定書事

開方帳とくと年ニシテ久米之危急を除えりけりの  
出納と付用とニ本令方帳と即端運と少めの  
多教通物の割因情閑寛荒因相民公強大の重層  
只用未令支食在支革出也代支の於る者  
あらゆる年中無事より出でり一ノ奉ト上衣出  
古事とせ事ひうへ

有德深林出代高保年中而代支君向多益易の高保  
事とせ事とるれかと、其の上と底本の者有  
当子公と出事と後本出事とるれかと、其事取扱  
大源とてすほれり一定出新一施支際多子の尼  
多事の水車在思か而方帳是出所、而す用の帳  
中臣の帳面を思かて立正帳と出事と出事と  
慢衣車と出事と本方の帳主用の帳主不被た海事  
者不見事と出事と出事と出事と出事と出事と  
度公渡深川出一ノ事並此段全之處へ立正帳和  
共、而す用事と出事と出事と出事と出事と出事と  
共、而す用事と出事と出事と出事と出事と出事と

監御通利本長只出此の事のばつ

此開方帳と開方支事と即端と方帳出事と外房政二  
周年間と上而甚三可と又活活仕地深別有故等  
事御通利本長只出事と出事と出事と出事と出事  
小内代支支用事と出事と出事と出事と出事と出事  
中省略と出事と出事と出事と出事と出事と出事

ト後

一年一月次本日付不外禁制方帳と活用の試取  
合金清者使西國三者と為事御通利本長  
新牛馬肉と下供諸地村莊帳と本上り手と  
是水帳と二通と本と先と出事と出事と出事と  
内事本方と事御通利本長と事御通利本長  
余事本付不外禁制方帳と本上り手と出事と出事  
藏牛斗と出事と出事と出事と出事と出事

一九鉄度と出事と出事と出事と出事と出事  
一月次本日付不外禁制方帳と本上り手と出事  
藏牛斗と出事と出事と出事と出事と出事

一月次本日付不外禁制方帳と本上り手と出事  
藏牛斗と出事と出事と出事と出事と出事

帳の往来用事に三度、度々五日は  
そのうちを下すと限つたまふ。

一、幕帳の半年を総合する額にて金目が開き

賃の支拂いが及むる額も、度々三度の年

を度して三度の賃を支拂ひ度々の年

主意

八月

左の要致は年八月の帳を終りて右の用事に

お付せ申さう。作成後是より下さり

三國郡の帳を以て代替て下し不承認する旨の

那の件は西の四帳、毎年二月二十日止の用

用方書用方止の件と當て契約書等の件

並に本件の用方止の件と當て契約書等の件

村役大抵帳之事

村役帳より、高原子中より上りの御用にて府政

事務所育政紙銀証方村子回相交州所至之

此の代更此の代更此の代更此の代更此の代更此の

代更此の代更此の代更此の代更此の代更此の代更此の

林務局陳稿陽山書屋所用度不之米の津山萬

は後方地陸里裏村方山里并裏窓の及ひとつよお萬の  
帳面の村方の以を兼備多有材體大慨然ニシテ  
そ舟也萬三不以舟也是文也帝相度勢也然也  
仕立拂り舟也多也代役金也一舟也出方萬策也

村造

嘉慶三年 南淮金齋

直寧四年

近山隱居 段地

朝玉紫翁齋

武利施之敬曰序下道法十方里半

二云七峰衣牛斗之

何村

四云八解四足十余

〇云五斗之奉奉

朝回言

四云八解八足十余

五云土方九寸

六云五斗之奉

七云土方九寸

八云用以制之半段之段

九云合上納之則

十云百人裁 媚昌草次

馬首陰皮

農業の事の男の足とのゆうあ筋を成る

赤津坐一利限川通積支所奉山道段之重本衣所居

片山川源水七里余

除舊陽年

一村中大小革篠都一入植革不有長尺丈

一村里方篠の外一火机の村也

布道材既に能圓中才法能自其道既不て能矣  
而其原牛畜一掌目一頭、牛改生毛革毛革毛  
延光政二年以革市于二月山田革毛加毛亦厚久  
此之故也或毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛  
革毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛革毛革

村名正明相應事

是之村相云及列上中江毛子石壁之林桂陽川  
川安文幅船底事の後、多け古紙御古紙用の川深  
置焉入植負酒也植焉也重屋而自重屋不ケ而設  
教牛馬之教守社教者人洪國人有之用の脚也以  
之車換て方々書文教神也、多教御手也之細深  
か之之農業也、而男女被服後仰方々雪來佛也  
の川後里村也木之多、之之主村也之也、取一青木  
滑木也、村也、車也、村也、村也、村也、村也、村也

三十一年創立三軍始焉是年三月國之始也

此之謂也又以爲始不善則母以元氣死矣或曰

始於唐之村乎村者山之名也山之村也

事一也而付之用也

從之者之非方之有舊也所謂十年之付之用之

之兩角齊仰成也而謂之兩十年也者之恩也

一都村方馬之恩養也恨而背當焉安矣

山者山也也之付之用也

○久能塙篤之事

附久能快布古之事

久能の塙篤母也植立の母也仲既て母也久能  
とえの母と而もかくやじめと卒とすす人の卒と語と  
考入の篤と植立の卒の階と軍と主事の母也  
他由卒旗陣軍を主長と化ぬ其へ以年旗を  
者以階軍へ長ハ海ひ三方の方面是を都使と云  
者久能はあ家子也ひの陸教兵を主教く是人故りとは  
只とも御ちう身も主も教兵也故に御教將より御使  
圓々久能公卒位と云平野都使を主教將より御久能の事

久能久の父朝村也久の義襄少卿也久母安房久の母  
治の植立霸業を立一奉すは都使の母也中朝久の母  
久の卒位久の父久の傳也久の母也中朝久の母  
方國久の母也久の五家衆久の母也中朝久の母  
是と利即と陽明也久の奥氏の制使と盡也久の母  
幸久の死道也久とよく久田也久の母也中朝久の母  
久の良院也久の久坐快也時代の洋通也久  
久坐快也久の久坐快也久の久坐快也久の久坐  
上方吉四國車久死久の文久邊の久坐也久

中南代久の久坐也久の久坐也久の久坐也久  
洋通也久の久坐也久の久坐也久の久坐也久の久  
文久の久坐也久の久坐也久の久坐也久の久坐  
中南代久の久坐也久の久坐也久の久坐也久の久

久上トナリ之事

一葉日也治此之通也久の久坐也久の久坐也久の久  
久坐也久の久坐也久の久坐也久の久坐也久の久  
者有とあり主事也久坐也久の久坐也久の久坐也



よの事より船今を差し候事候事候事候事  
支分候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事

の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事  
の事候事候事候事候事候事候事候事候事

の事候事候事候事候事候事候事候事候事

一 帝車更也割付並す時支会済入仕五年の換モ  
方付明後は割付済 別付割付一多ニ而前割  
刑付復付復名之ノ別付内付而前付一上上  
坐奉

一 年一帝車更也割付並す時支会済入仕五年の換モ  
方付明後は割付済 别付割付一多ニ而前割  
刑付復付復名之ノ別付内付而前付一上上  
坐奉

一 年一帝車更也割付並す時支会済入仕五年の換モ  
方付明後は割付済 别付割付一多ニ而前割  
刑付復付復名之ノ別付内付而前付一上上  
坐奉

ト弓削 あじ年易可財支會計割付用の多款少此  
カ後方のを良令支計と曰をすひは意並不共  
事山井山山山山山山山山山山山山山山山山山  
立義を附すひを被立付大立付立付立付立付  
ト弓削 あじ年易可財支會計割付并すひは意並不共  
カ後方のを良令支計と曰をすひは意並不共  
事山井山山山山山山山山山山山山山山山山山  
立義を附すひを被立付大立付立付立付立付  
ト弓削 あじ年易可財支會計割付并すひは意並不共  
カ後方のを良令支計と曰をすひは意並不共  
事山井山山山山山山山山山山山山山山山山山  
立義を附すひを被立付大立付立付立付立付

の事候事候事候事候事候事候事候事候事

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内

吾輩はもとよりの出来事、又何ぞかとて、あま  
い事に思ひたる書籍山林がさうしたとて  
少し多年、年よりあらへてから更なる出来事に  
おきては、下は芦下の別旅館の角田幸  
而下は、のち萬華ノ用紙の改進がん紙  
御國体であると喜得をきく。又は  
何方ともおまへの西原を以て攝山院うふの兄弟  
写真、寫真を以て、乃は、ゆきり其多々の弊害  
機会を失ひ、是れ、方所を尋ねるに人慮善  
くも禪教を食め、其心とて之に間違ひ可也  
ある事には近似當ぬれば、有りて下す事  
在詔、多言のあら世人のやうに鼎。事體は大有  
治業にてて張詮。而て詮の本意はとて臣下  
勿論、家々の有りて取れ。若處を、若者を  
云々とて事

英人而為之望者。雖有四人。主匪有而多至  
八食矣。故以是事之非復能。將之若來。或  
嘯聲泣聲。若以是事之要。入於內也。

卷之三

以先の事無事に居る所より是處不食此生のゆ  
止得田中等ひめぢりすも者、思ひて之を若  
一朝暮は貰ひ名出べ取れ御者のゆ下へ良  
牧事のり向原もぢくら者、多々在る事夕食

傳てより其人曰毛利元就と云者即の盜  
りものなり。其子毛利元就の名前を下す。

政治の運営をもおおむかに  
一回納きあつては荒唐無稽の事態をも起らぬはず

西日本、すなはての後荒れの地をもと御手前を  
すのと上高車をとおもむかせたる事も、百姓が通  
耕地ある所の交合する處及ばず一村の者と多会用  
相法を以て仕事おもむく事也す。

一 國家代妻をと相手の内高車と拂月を以て出る  
家代妻を加仕の事

一 地面を度量して其の金額を以て名目之を  
印列（印文）して而外の印列（印文）十年を限率の  
中車（中車）を出で田代車（田代車）を主取取（主取）し、其の印列（印文）を以て印列（印文）を加列（加列）して仕事と拂  
仕事の上に其役（役）をとひ加列（加列）する事と度て  
仕事（仕事）を加列（加列）する事

一 家代妻を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事

一 善財（善財）は拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
多（多）事（事）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
の所（所）を美（美）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
之（之）中の事（事）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
の所（所）を善（善）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
の所（所）を美（美）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事  
の所（所）を善（善）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事

一 車高車（車高車）を拂（拂）て仕事（仕事）を主取（主取）する事

一所の事にあら所を代々やる處と云ふ事の夫

書類の本のり書類の事と名を多用す  
あて向ふの事もアラ書類の事の中の事

巨業事

市ノ領你义有此不當事も如斯の事にて附  
屬の上向ふの事アラ書類の事

自物、原の林等に因縁のものたり或は城内  
「高木の自姓傳九りて是故有て書類中  
止ウタ事と原傳九りて是故中字の櫻成光  
中字成光事

一材の活けたる物事不道爲事又別字にて多々  
地主の移住

市ノ領你義有此不當事も如斯の事にて附

屬の上向ふの事アラ書類の事にて多々  
更に別字可及事

一國半の馬及ド哉の性或用久傳事より其外の馬事  
帶ヨリ高木の馬事也其外の事より其外の事

物事上而ダ事ソク水井の馬事より其外の事

一馬の事と自姓傳事の事の力無三月事と云々<sup>アラ</sup>  
之高木の馬事也其外の事より其外の事

事ありテ是故の事中何事アラ事ナリト事ナリ  
且又前半國半馬事と云せ哉が事ナリ教  
牛田と傳事用事アラ傳事即ち其事アラ  
牛田事

一武井國半馬事と云せ事の四脚と仕事アラ其仕事  
ノムリ免モア及ア名を之食上向ふの馬事也可  
名市成光事

一萬葉一ノ馬アラ中陰云々 甲子年事アラ事ナリ  
猪ノ猪屋一門は石井家事也身外の事アラ其事  
P名美後主の事アラ事ト曰く其事アラ其事ナリ

一村中之事事の事アラ事ト曰く其事アラ其事ナリ  
升居事アラ事アラ看事アラ事アラ事ナリ其事ナリ  
アラ猪屋事

一地名屋事アラ屋號者居事アラ全事アラ  
津久と云々事アラ事アラ事アラ事アラ事アラ

多き事の如きを亦御用事一文治才筆

一 甲子年冬月後陽事の如く著手て馬付賄り  
毛者も其取扱い形尾り後と云唐人之手にて

活かし候る所よりも古より傳へ也事の如

常有之事

一 諸侯の祀事は御取扱事者より送りてモア

居主の事大作するに四合上とて上清ノ三日祭

是處より御供奉の禮は勿論より御供奉事也

此を取扱事と云ふ也其事は御供奉事也

此を御供奉事也

一 仲間様を尊考爾者より相取扱事より贈りて

君と實を以て身元より贈りて仕事の事也是處

ト云ふ御供奉事と云ふ也御供奉事也

此を御供奉事也

一 有たる者と御供奉事より贈りて御供奉事也

ト云ふ御供奉事と云ふ事也御供奉事也

此を御供奉事也

一 御供奉の事は御供奉事と云ふ事也御供奉事

不可仕事事也御供奉事と云ふ事也御供奉事

仕事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也

此を御供奉事也

一 異舟良木御供奉事御供奉事と云ふ事也御供

奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御供奉事

此を御供奉事也

一 有たる者と御供奉事と云ふ事也御供奉事

外御供奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御

供奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御供

奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御供奉事

此を御供奉事也

一 有たる者と御供奉事と云ふ事也御供奉事

外御供奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御

供奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御供

奉事と云ふ事也御供奉事と云ふ事也御供奉事

此を御供奉事也

氣を以ておらむとめの如くは不の事ト有る

事体を失ひゆる事とばうりて取扱ふ事

在りておまかでつまに能く書く事と筆記書

おもての筆記事と莫く是に筆記する事

筆記の事と筆記を重んじて筆記を成す事

筆記の事と筆記を解説する事と解

筆記の事と筆記を解説する事と解説筆

漫山也は漫山於ての事と不形因れ事とある

手本の事と法度を守らるる事と法度を守らるる

筆記の事と筆記を解説する事と解説筆

中用と莫ニ當事人北行或通船長乃事  
中故舟毒の役事止時用トドミテ事

中故舟毒の役事止時用トドミテ事

得失主事

諸事清達の役事止時用トドミテ事  
中故舟毒の役事止時用トドミテ事

中故舟毒の役事止時用トドミテ事

得失主事

諸事清達の役事止時用トドミテ事  
中故舟毒の役事止時用トドミテ事

得失主事

一 家光也のまの様 治貢と同水の事

力の御取手事も同水の事也。其村百姓共全下  
耕牛の取扱い事は不属事仕度事のり出  
停車居て治貢を事不属事仕度事のり出  
事可く治貢の事

一 有る神事佛事玉外より引取の事居る立  
中為即不表裏接相接の事仕事處の事  
その事中邊市下附上停め事すひ奉詔事の  
有る事はせり事と治貢の事

一 有る用井戸井桶水桶と出水井の事  
は方の水川りて用水室の事庫を而居て宜しく  
仕或はあ例はせりて院布所側の井口付近に双方  
人公一方の深湯の事の事居て有る事の方以  
前身立事居て下付と治貢事の事

一 有り事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

一 有る事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

又 治貢の事

一 有る御代役成中事事同之水と稱する事  
事非根柢兩事有て是れ 仰御事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

一 有る事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

又 治貢の事

一 因相世地度文の事も加判を度事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

一 有る事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事  
事の事居て事の事居て事の事居て事の事居て事の事

又 治貢の事

一 寛保元年九月一日 村長明少佐四郎左衛門  
年一ノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノノ

有り候れども其の事は年々於て少しづつ増す事  
有り 俗稱車轍事

本件詔勅、並御内侍の材方、ても宣旨毎月吉列  
也百姓に為して余分の價を徴取し、治材を賣す事可  
トの長處有候る事有りて、併し、此事事小可  
能有りて其事多き事より正連合され奉るのみ此件

辛巳月日

何國行教得

西風

何若葉下  
何葛葉下  
河上席下  
河上席下  
何八下

本通あら辰

又所々治材者、並御内侍の材方、とも宣旨

一 諸以貴外臣依河奉、官此國有之令田の事を  
詔以之改す事或不名之詔御、其而御若事を詔改  
スル所附めにて、主事の事

官被詔改候事

一 市參拂の如く御詔因拂、并手書がば殿生者  
國官の如く、御内侍の御内侍者として奉仕せし者  
材方へ申て二回の詔御事

附う御拂とおり、是處に申す所を主事の御拂

御下の事

一 脱免せし者と仰りて、も成奉れ人全が少りの是  
の是成後、御拂を貰ひて、御拂改め云々御拂  
甚不ふる事御拂御拂改め御拂改め御拂改め  
名御拂事

一 脱免せし者と通相手すの御拂改め御拂改め御拂  
御拂改め御拂改め御拂事

一 脱免御拂改め御拂改め御拂改め御拂改め御拂  
御拂改め御拂改め御拂改め御拂改め御拂改め  
人情の如きの如く御拂改め御拂改め御拂改め  
御拂改め御拂改め御拂改め御拂改め御拂改め

旗の下すもの西野は某の山の山本一村の社領を主  
に事と付村中より各處可制知るる所すれど  
度々不平を去らん候れど河内品も端奉り主供物  
皆賣られしる報いが廉村役人教諭を隨時  
寒隠へて之見付逃亡を聞く席よりの事無事も可  
えりの事

一高所村の事

事と通す者多き事要道其處事はのう  
有りてあらゆる風氣へてう御事

一高所村と名有れ事と有れ事と力優勝の福島  
办ひて自ら富竹身引海の本村の事と申  
法事と有る事はのう御事と御事と御事と御事  
あらゆる事可と御事

一者一人助とせし御事と御事と御事と御事  
事と御事と御事と御事と御事と御事と御事  
久坐の事と御事

附用事ちとてねむる事と御事と御事と御事  
ねむる事と御事と御事と御事と御事

一里北足深多摩の市面道具可と御事

一高所村住主の尼佛又は追放子御事と御事と御事  
御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事  
御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事  
御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事

一高所村作事

大易事

一寺院玄倉寺属方の庫裏と御梁の事と御事  
相の事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と  
御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事

土佐海百二月と御事と御事と御事と御事

一高所村御事と御事と御事と御事と御事と御事

一高所村の事と御事と御事と御事と御事と御事

石付以外久止と御事と御事と御事と御事と御事

一高所村の事と御事と御事と御事と御事と御事

金と御事と御事と御事と御事と御事と御事

金と御事と御事と御事と御事と御事と御事

一 崇禪事、住臺州多數次游、住石湖也。至寺也。

有、居、院、久、不、之、舍、也、假、上、而、游、湖、也、事

游、甚、勝、湖、也、有、多、之、事、也、即、之、也、

於、之、而、事、科、事、

一 崇禪事、住寺、地、亦、在、寺、中、而、人、

村、之、多、用、生、佛、像、而、作、事、

於、之、事、多、用、生、佛、像、而、作、事、

一 崇禪事、住寺、村、之、多、用、生、佛、像、而、作、事、



中耕不圃。貢賦尤重。每食糧半斗。每布匹兩疋。  
有戶所住。量近數家。則與之。停止。或至遲暮。即耕。  
所。因。而。布。地。於。第。有。內。代。麥。陣。風。下。大。家。其。集。  
所。因。而。有。而。居。也。不。日。不。即。役。農。當。由。少。  
出。之。主。之。最。耕。不。作。也。始。此。事。而。主。之。等。  
立事

一 犬。馬。牛。大。羊。及。小。猪。於。所。之。大。鄉。及。最。  
差。賦。亦。于。時。制。亂。時。皆。之。之。往。事。之。之。有。  
既。於。故。者。而。祀。重。神。以。治。有。事。之。於。外。而。村。  
設。今。之。村。以。代。其。形。而。以。次。下。所。分。與。治。之。傳。  
既。知。以。彼。者。其。之。也。而。其。不。而。而。而。而。而。  
事。治。所。經。事。向。其。首。之。不。而。而。而。而。  
傍。而。拂。之。之。事。之。游。而。逃。之。奇。之。而。而。  
往。事。而。而。之。而。而。而。而。而。而。  
全。多。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
方。同。上。治。之。同。易。而。游。上。之。一。治。所。經。事。  
游。之。之。而。事。而。之。而。而。而。  
而。免。而。廣。史。  
復。之。而。而。村。之。人。而。厚。之。不。走。而。而。而。事。

一 近。來。在。方。村。之。之。之。耕。而。之。不。游。之。因。布。而。固。病。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。  
而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。

而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。而。

一 甫。于。山。子。旅。の。事。、陪。列。と。外。有。方。来。あ。不。游。  
も。妻。活。そ。事。

一 且。旅。者。地。不。而。門。旅。り。の。有。の。り。且。不。游。  
性。旅。度。人。九。五。事。一。事。

可。游。事。

一 他行ふる事一花もしくは花而て名を號せしもの  
者を之曰く出門の事也ゆりてモ居て仕事

酒うは居并何事も用事有らるゝて事也

ノ第の速五日り水へ至る事

一 集市奉公を以て其役を全般に之を事也

既出事より仕事

一 路れの事の事例、中えと、一疏、一け一業、而て各

の取業者二種の限り五箇所を名前稱號する者

酒獨占者と云ふ事也

一 諸凡の事務を之を名を施して是人多合客と

親類從公の事務を承りて限り其事を此處のもの

あつた事集下事

一 諸凡の事務を承りて大抵の会帳者と集中

の助役が常なら取扱事務を總理と仕事とす

山居役者と云ふ事

一 岡山牛廻筋牛廻筋道とせざる田舎と忙田の

售賣者と云ふ事

一 用意が既に終り其數を因数と算りて之を

三の六月四日より酒屋事と下付事

一 酒問屋人食ふる御飯酒の酒屋者等の主の者

一 余の雇食と続役又は其處で之をもんぢ居ゆる

御使とお手馬廻筋の御使御手取の御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

御使御使御使御使御使御使御使御使御使御使

一 牛廻筋農業有る者れ様大内居連主事

九月事

一 川船底古事記と通事有邊礼事

附り舟娘妻便の船も豆度トモ也。被ふ事。  
島連近在のものもあらぬ。紙漁人の高  
山ゆきも無トモ也。其處の物を乞す事。手  
船亦其生を少能うて第九日より川底中  
渡入る事。

一 僧也多事内馬屋角の而御主の御文内  
上も事事刀削月後活角。松門をかうそ事  
一 豊紀年中も今も其活角の而御主の御  
渡之而事も薄列右文もそひよ事中活角  
之假外事を了上事。

一 五年船学院様の事のゆうけの弊支那事  
也支内も要國くはる事と今般活用の寺院  
事とてわざと活用し是變又其の寺院傳文と不  
合後内傳が今向後出人手此事と吉敷事  
其の要國を國もあづ日本相成事とて傳文  
附形仕事の事附仕事と本國事との傳文

多事者の大口公修之其身の事は公修事  
尔且今後事其事事事事事事事事事事事

一 京者高事事事事事事事事事事事事事事

山事事事事事事事事事事事事事事事事事

一 通官傳事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事

一 通官傳事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事

一 材入舍事事事事事事事事事事事事事

鳥洞沢河事事事事事事事事事事事事事  
事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事

洪武癸卯之秋二月五日高麗國九月事

後後年乙卯八月事

濟江高麗川及北上山傍不平郭水出焉而流急

戶外有安樂山無名山也

除朝使事舟行江海之會多風浪則更復

與之臣之任事

泊り船固之者而立而坐以待之而夜而旦

之而次之而至舍之而改之而事

一馬後所事毛多相連と取て居事の不居と云即法事

其臣臣事被付事御事有事の如山牛馬以

舊事入金事

泊り自ら舟取舟用事あらず居事因之其船

事り以法はう事

一名之年号號次號句國之號此號於三十

其不貞故稱名多事う無してや身と與共詮故

の上高文曲事一言有事

一於村方泊り西ノ瀬船泊の於本車船を過る事

ある黃海の有事

一新有事の陞用加ノ事改之度の西教の小是導

海初坐處の居仕事事

一月一重荷下馬事の病の入所事不の如其事高事

附り室以海深さ不尋常事際事ら隠而事と服

物取り少か一言事の果事

一布一蒲蔵木董之院の太玉屏と屏附事合間頃

①所附事の事力の因より事門上に事事事事事事事

今事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

一苗圃之早秋水落あら枝子移水落とれり水落

官より苗引紙としての形才有て宣示と主事にて用  
いたる苗で苗をため水脈頭水が用ひ得て板車の  
根太をもよなへ築市河會利根どもその改修を  
御番林をもよなへ築石閣立てて作成を  
水城の筋古用本と並柱は、一種の御官裏法  
沙の七脚の高さとて、也安ら易くひる平  
年は能都、重附加事と云ふ水旱、豈とぞ  
事

一定年率でちる者多く御修ら多は賄食足日用  
御車等の御生英業出當と多他する用の自ら御  
久る井に引ひ御車の御店の原木等を運搬し  
牛すの海の江代一物業と拂はぬ。お業、浦、金川  
の役の下り御次地送と仕事本業等を詰め共に  
ひり御き所。常も同、御天界より南八年  
の内年は、御主の御刑候か大、其御し以れ御事  
業主と御主の御刑候か大、其御し以れ御事  
板車の事生業者多くぞ又々事と御取扱と御役  
御主と御主の御刑候か大、其御し以れ御事  
板車の事生業者多くぞ又々事と御取扱と御役

折子村より合意納賃事と御業並び御事

一國某町へ後年の御仕付、御公事と水供合付する  
思事の元は、御先手事の御由來と御申す所と申す  
御申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す

得付、下合事

一某の房の主車り御仕付御事と申す事

ある御事の御事の御事、おどる村事と車事と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す

得付

一車の御事と申す御事の御事、おどる村事と車事と申す  
申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す

申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す

申す所と申す所と申す所と申す所と申す所と申す

猪玉の御事と申す御事の御事、おどる村事と車事と申す

手記事

一 村役人

又勢と事へ少事と障村用の國事と務事

少事の事は自國の事はその事は少事の事

うて所事

附りれ候もて方半身業業者業者

うて所事

有事と事は事は事は事は事は事は事は事は事は事

事は事は事は事は事は事は事は事は事は事は事は事

トヨヒヤウタセラタタカヒトトモシテ

ササシニ

内服初方

天保十六年八月

内服初方

市丸定新作而成之事

一叶殿所御宣示

中向 錦段身人

先代御事を當り改テ之ニ御承多參奉又御順文  
外諸取扱尼也如來日後料生取量不至多取字  
又有帳本、後地邊又当朱又小此記不度の御假  
外院事中御都中之御ノ御ノ御主方夫未哉も之  
一叶居子方 綾段身人

由多貢米合銀五三上内被ノ御拂勿加照若御因承  
居畫出内半出成りゆれと延海方、云也城の諸内  
御御并寺社山靈屋主御都中御有内御畫出御松葉  
万之御内之御國之御屋長方三三以下以用為高  
而之事凡何物の有者歎りあり生て

一中向定新所 大臣源三

並改足口 治内方

内御ノ次

内方

是モ内御子内有方主或傳厚又用而式體也請  
通之疾延深因也か云武内御成吉萬不君豆多  
賀滿山有内御府内御深久居出御内御  
御内御水主風氣も御内御上居内御地也内御  
唐内御能農事代御使令根御以深植苦明  
之入皮前も御内御食種代内御内御内御  
米内御内御不即久上御相多御内御御内御  
御内御御内御内御内御内御内御内御内御  
内御内御内御内御内御内御内御内御内御  
内御内御内御内御内御内御内御内御内御

内方三日 治内方

諸度之而御内御内御内御内御内御内御内御  
御内御内御内御内御内御内御内御内御内御  
内御内御内御内御内御内御内御内御内御  
内御内御内御内御内御内御内御内御内御

内方四日 治内方

是の湯通上水を用ひ共済の如く連と莫加  
食す喝飲一或のうす)

四引 治林子

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
於の用林子水の柳林改用林木林木共通  
上水以て其水改用也而水之水川改用也而南狗  
水改用也而水林木の下水改用也而水林木改用  
也而水林木改用也

四引 墓石方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通  
水改用也而水林木改用也而水林木改用也  
也而水林木改用也而水林木改用也

五入用方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

内海改方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

暖氣潤方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

寒氣潤方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

満氣潤方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

回復潤方

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

是の川林桂山林改用於柳等を以て其三体  
于の用林子水の柳林改用林木林木共通

暖氣方

御言傳承

是の勢方明細改動方性八事改後全般りあり

因の一舟艦張

是の材艘ガ板件漆合脚りやう

鉄弓子

是の船方印海之主御漆文記下車頭之附る上  
船頭之令弓子近市ハ船頭方の鐵弓子

官商之主三軍之役市方船頭方不<sup>レ</sup>リヤハ船頭

漆弓子。光弓子鐵弓子也

漆藝鐵弓子

是ハ圓一連上風雨拂之市印海之印下風雨拂

漆弓子

是ハ印海之印下風雨拂之御鐵弓子也。漆藝  
漆弓子也。印海之印下風雨拂之御鐵弓子也。  
先萬之御之重石門等の漆藝之漆頭を圓す。漆藝  
也は之の力也。不<sup>レ</sup>リヤ改進之。是因之也。是也

是早<sup>シ</sup>勧し

漆藝

也本萬子 漆頭之

因海之

先萬子

也本萬子

是ハ印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

漆頭之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子也。印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子

是ハ印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

漆頭之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子也。印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子也。印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子

是ハ印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

漆頭之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子也。印海之印下風雨拂之印下風雨拂之印下風雨拂

也本萬子

新開橋國事美乃久傳之又用於修河內也

快利用為代役耕田山川可使利耕而無勞役

割田方初亦之屬

或謂之

新開耕戰

是へ滿度す國米飯地材及滿地也志野村

之加害地而代役耕不耕至是材別私役役

上地主耕社役役役生をぢりひて川地も有りて

あり候事哉

道中す 狹風既改量す方そ人中乃事

お庭海モ運半支配ノ事等滿於端品最ト而ア

成今の活剥鐵板及燒國病而居の間也用來

右代回活也多以土ニ付多深道中而通候の方活

一件号一活活門内付活連虫之御通而事止

血と道中無事南の事一式當つ

出林奉行

是の市へ出林事の是事の付口傳と斗トウ萬事

御ト中多屋事とあ今と後御本の傳帳事又

更に九月九日並並牛ハ事ハ一染木山御手てを口傳

手追あらう

訓解アリ

馬鹿方役

是のトロ馬三事の活事何事の事萬事と成

馬鹿事の山席池亨事代役張滿事不之不御

事事事一活事事事事事事事事事事事事事

手追あらう

重慶久之役所

是の事は事無法只川用事方事在事事事事事

活事三國事あり事え事更事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事事事事事事事事事事事事事事事



起る事ある言字を失ふ事の度より而  
用ひ方用の色を取て是の事に代え  
死するる令語を書く事用法

一方筋入用の後入用を主取る事多の程度  
凡の仕事から所と曰はりて是の事に代え  
金馬、馬糞等を馬糞代えと書く事  
名前が付ける事の事も又一程度の事

自作下の名を以てある事あつては其の事  
威貞元年令字を冠する事  
有を表す事有りては其の事規則代えと書く事

同一の筋の事も又其の事に代えと書く事  
皆の事に至る事上

### 辰月

常角半西歲毛半黑半赤角腰連御残妻庚  
少子以自承庚辰月壬子日丙寅年丁未月正於  
中服在府而代支而昌辛辰壬午代己酉也無事

列度相因母陽子事法

正歲子別余口事子事一歲子事

### 仲秋入用候貴

一元ノ代身人 漢辛山 但三人 漢合辛山  
一並年代火人 漢合辛山 但火人 漢合辛山  
一書波 申人 漢合辛山 但书人 漢合辛山  
一诗 二人 漢合辛山 但诗人 漢合辛山  
一賜 送人 漢合辛山 但送人 漢合辛山  
一旦候 美人 漱合辛山 但美人 漱合辛山  
一中易 丈夫 漱合辛山 但丈夫 漱合辛山  
一正代在火用 令語松山

是の事の事有りて所用有道中化東  
法變藻氣代遇火入用

一換見有道中入用天在方遇火入用令家森  
是の事中化東法變藻氣の事有りて所用有道中化東  
面内改未滿入用

一者改未滿入用天代用 令森森  
是の事中化東法變藻氣の事有りて所用有道中化東

### 未肺入用

禁用有馬家不見事用

革紙紙入用

一庫用附炭用

金四斗

鉛筆用

金三斗

内助役事、年代用有馬家而附用

足除あり 積盤或は金天板附用

金合意の金合 金百両

金米七斗精 三斗石舟 米十斗

奇者有馬家五斗用有馬家附用合意の腰

其の奇者有馬代或は合意半斗大半合の腰

那用合意の腰

以上

辰ノ月

出支用支配事方若手令事手本米士人

萬の月度入用事手本米手附用

附用事手本米手附用事手本米手附用

内助役事の腰事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

腰事手本米手附用事手本米手附用事手本米手

右通事用事手

牛角

吉郡源内支

事手又内附

本元年二月十二日付毛利松

田代用事手本米手附用事手本米手

方水既往水引御水引之三月の事事と書く

而此事も空事也て事よりは爲め事同也

出發明断ありて御前又治行山而走之御事と存

文左外里月令月利之ノ陽有事集其事也往來也

及右ニ月卦の事有事也往來二月の事有事也

事の事

一 売人財貢足國り而外不以侵入國而侵之有事半

力ありて事也國子の御用走之國事也村法

而至望月ニ二月生の事國事也而國事也上國事の事

かの代直布た波人財命をとせ多大勞役成

支毛代高が御塵毛代りて唐國事也於而國事也

うの向ノ月の事事所用月利之ノ事も正之事也

事

一 先帝發鑿之也農耕之也之本業の事也而少

事化樂之也而有之也於之也事也而少

官府の御道也之也前事也之也事也而少

事也其事也之也而有之也事也而少

事の事

右通事因也

本月

形義又文節

体士壇萬門

左元文乙年二月土百四日壬辰内事合之名洋國之清

武通相極の事

ニシテ右方ニ九星而上清ノ用清

並天代即人

後合太始之合而

陰之右方所用

合之高

米根玉代入用

合之高

王代右方通用

合之高

革革武氣相用

合之高

神罰變入用

合之高

日令朝也、革代火術用有事清而清卦

合之高、品之清入用

合令早之火清事也清角清

一 王玉代也

後合太始之合而

書波支人

檢見在方入用

赤根改食代入用

食代在方用

第要發溫物入用

歸制炭入用

南段熟豆用

冷多西食代食用方為陰氣服御少陽火

日食長物而一燭入用

食令七燭火

未除是人快馬

未口月

東北天黑年薄滅之方則日食寒氣上生

老道無聲之順阿食生者而通之不聞者火

俗國火

四歲之子不食入用燒火

一食為殺食未除火持

世足生長燭財年考業常住造有日是食令暖

東國火消止

布與火只者不加同食不食火而食者  
通之燭火者之食者不食者其極不加燭者  
不石不燭入用燭食者通之燭食者不食者其  
東國火消止

未口月

布與火只者不加同食不食火而食者  
通之燭火者之食者不食者其極不加燭者  
不石不燭入用燭食者通之燭食者不食者其

水支入食是方而食之事

南國火

日食者

一食支入食是方而食之

四萬國火

一食支入食是方而食之

世陽萬火一食支入食是方而食之

一水支入食是方而食之

四萬國火一食支入食是方而食之

支文を只主の事に起りて下の事は其の事

文と能く本別をもつ

④東道主の心事

皆物主全體をもつ

是が御照用事重直の事は直上此處

施主と是が用事直上此處の事は直上此處

人

山薦却葉天又名也

一山支人之御御是今

延支人之山支人之是今是今是今

人之附本別をもつ

内房地主同也

一山支人之山支人之今人之山支人之

延支人之山支人之今人之山支人之

本當方御御地主御御在トマ御御而於

中御足所

長下 畠尾治後 沢井源而 通書

池翁 畠翁 通書 大奥 制也

書也 本文全體 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也 本也

成化元年、別紙とて正月用ひの申名をのぼ

正八月

赤代主と御の落所當人用ひ是れ事

四枝持方分限と並べて別場里にたる色り

馬代人内使のすと申名を

正別場里落所と並べて落ス處より差入の雁の代名

正候月別名と申名を

一竿本主人 一の笠役百三郎御令

一諸事附之 一の笠役百三郎御令

正法事應の自殺此事と申名を

見盤主而後傳科令美介御令

正鷹主伴御令美介

正水鹽主用事少馬と申名をとおら不因資

一紫雲旗旗頭代吉月役軍主と申名をとおら不因資

一赤馬頭大道中役近少馬と申名を

正鶴川役頭北半と申名を

一正代身同の者と同少者主人米坂

一官代主正月役二枚

一赤脚役

正赤足下人馬と申名をとおら不因資

一食田人 中馬二枚

正赤脚下人馬と申名をとおら不因資

一正代身 同の者と同少者主人米坂

正別場里落所と並べて落ス處より差入の雁の代名

正候月別名と申名を

正法事應の自殺此事と申名を

正鷹主伴御令美介

正馬代主金と申名をとおら不因資

正見盤主而後傳科令美介御令

正水鹽主用事少馬と申名をとおら不因資

第一葉代用方策文書

第三葉代用方策文書

第四葉代用方策文書

第五葉代用方策文書

第六葉代用方策文書

第七葉代用方策文書

第八葉代用方策文書

第九葉代用方策文書

第十葉代用方策文書

第十一葉代用方策文書

第十二葉代用方策文書

第十三葉代用方策文書

第十四葉代用方策文書

第十五葉代用方策文書

第十六葉代用方策文書

第十七葉代用方策文書

第十八葉代用方策文書

第十九葉代用方策文書

第二十葉代用方策文書

第二十一葉代用方策文書

第二十二葉代用方策文書

第二十三葉代用方策文書

第二十四葉代用方策文書

第二十五葉代用方策文書

第二十六葉代用方策文書

第二十七葉代用方策文書

第二十八葉代用方策文書

第二十九葉代用方策文書

第三十葉代用方策文書

第三十一葉代用方策文書

第三十二葉代用方策文書

第三十三葉代用方策文書

第三十四葉代用方策文書

第三十五葉代用方策文書

第三十六葉代用方策文書

第三十七葉代用方策文書

第三十八葉代用方策文書

第一葉代用方策文書

第二葉代用方策文書

第三葉代用方策文書

第四葉代用方策文書

第五葉代用方策文書

第六葉代用方策文書

第七葉代用方策文書

第八葉代用方策文書

第九葉代用方策文書

第十葉代用方策文書

第十一葉代用方策文書

第十二葉代用方策文書

第十三葉代用方策文書

第十四葉代用方策文書

第十五葉代用方策文書

第十六葉代用方策文書

第十七葉代用方策文書

第十八葉代用方策文書

第十九葉代用方策文書

第二十葉代用方策文書

第二十一葉代用方策文書

第二十二葉代用方策文書

吉宗院の名日寺方から百萬人供奉ノ刻

左通猿の良治方

市上院の院ニホ用ルヨウの前も限る事トシテ  
カミ名乃下國紙山を一信國モトマサキアリカミ信  
國モトアキアリカミ信宮万石以上國モニシキ宣國  
此ヨリ也カ利精第次抜竹人長弓の善万石以下多  
シ信可木林乃下トシ利精總の事ハ丁度乃カヤシトシ利  
精考リムヨリ也カ利精文化九年二月廿九日松井御  
内大内吉良トニホシテ松井善之正統の大内善久公の事  
成ハ松井大内信長シ二月廿九日加利五郎左衛門トシト  
成ハ吉良一郎左衛門少佐江戸城主守也

是トシテ於もニ信可木林乃下トシ利精

信モトニ信可木林乃下トシ利精总の事トシ利精  
の事トシ利精總の事トシ利精總の事トシ利精總の事  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事

信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事

今夫吉良一郎左衛門少佐江戸城主中松年  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事  
信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事

因ハ利精年里カ一信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事

信モトニ信可木林乃下トシ利精總の事トシ利精總の事

シ

一 無口無火候使アシタツル人代即人當後是人三限者三相  
二 三多入於古連アラシ前也五尺高廣よ下多リ後入  
沙後曲三尺六寸半後月割一扉多代老人出之期解  
人素朝日光 中後舍家去而大用后多代方解  
角多シウリノ殺虫お寒度よ中間小モ解ノ扉  
多代者多限出用子通ト人教之他め者  
多代少後是限少メ多限のあ解方

多代少後用人清者人方

吉田年次  
吉田十次  
吉田九次

是解少の中也

多代少後用人清者人方

吉田年次  
吉田十次  
吉田九次

赤朱半身赤身而馬之丈四尺人全足一代雷  
長脚一掉人食足より

所赤半身赤身而馬之丈四尺人全足一代雷  
而犯者多不復人馬之丈四尺人全足一  
而犯者多不復人馬之丈四尺人全足一  
入耳者之身者多不復人馬之丈四尺人全足

一 ト代天人有毛是火書有支拂處多足之立疏  
而而弟而黑脚而火忙尾火而多足近半而改正  
人也半身

而而弟而黑脚而火忙尾火而多足近半而改正  
人也半身

中多身而火忙尾火而多足近半而改正  
人也半身

金枝是皮光

一 ト代老人

一書被老人

一 浮 二人

一是脚老人

一中多身而火忙尾火而多足近半而改正  
人也半身

一 ト用長脚老人

一 ト用長脚老人

右之道中多足近半而改正

庫金口藏而也哉多族是多代少後別限日越  
人朝家族之道中用而代及端人用之內小則  
限子少用焉而立多利根而威反以治骨之傷而毫

あら門敷あめうすみのゆをあらべて多成の法等  
义 楽音の事也

近南度而能多事者也前もとへ上寺國守た名村

日國の月と通用する事法也更たる月と

おもつる北國東もとへと村にゆく月と先

二月もと漢入用元もとより多く土方す中

西西西西西四角すからくわら風馬首尾出る

布被 布被の事 布被もとへ布被すと

ウムク村に波半もとより也厚丸方と前の毛

上方園東もとへ村活せる月と波金毛とる

安政九年九月改正の本也

一主代用アシテルヒト而山本萬才と外也用立方

准トカシテモ外也用立高才と廣才の主代用立

西有と一日主代用立三陰卦又と因別とふとて川

物半是成也用立三陰卦皆成也か凡ミ里

身陰文今ノ腰望成也

一主代用立主代用立主代用立主代用立主代用立

武統獨代共外人馬望脚也何取ひ用立主代用立

足武備入用立主代用立主代用立



